

《2009年11月例会報告》

【日 時】2009年11月24日（火）19:00～21:00（その後「ルン」～23:30）

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室（東京都文京区大塚1-9-1）

【テーマ】公開シンポジウム2009 検討会

【参加者（会員）】阿部博一（日本サッカー史研究会） 牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）
金子正彦（会社員） 岸卓巨（DUOリーグ） 嶋崎雅規（帝京高校） 高田敏志（町田高ヶ坂SC
コーチ） 中塚義実（筑波大学附属高校）

【報告書作成者】岸卓巨

公開シンポジウム2009 検討会

中塚：今回の月例会のテーマは、本年度の公開シンポジウムの検討会です。仮テーマとして、日本で開催する「メガイベント」を取り上げるとしてありますが、これは2009年度の総会でのシンポジウムに関する高田さんの発言「タイムリーなところでいうと、メガイベントの招致があるんですよね」という発言から始まっています。その時には、東京オリンピックの招致がだめになっている可能性が高いという話もあり、その通りになりましたが、このような話の流れの中で「メガイベント」というテーマが出てきました。その時には「メガイベント」についての共通理解ができていのかどうかも分かりませんでした。イメージとしてはオリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップが日本にも関係するイベントとして、この3つを取り上げたシンポジウムがやりたいなということです。その他の部分では、日本サッカー史研究会と連携して中村覚之助を引き続き取り上げたいという話が出て、総会の議論は終わっています。その後、会場の部分では高田さんにいろいろと動いてもらっています。

高田：現段階では2年前にシンポジウムを行った青学会館のアイビーホールで、60～70名用の部屋を押さえてもらっています。日本青年館は10数名用の部屋しか空いてなく、他が空いたら連絡をいただけることになっていますが、おそらく空かないでしょう。もう少し安い施設があればということで、東京都サッカー協会の野口さんに相談して、国立競技場と東京体育館を確認したのですが、どちらも埋まっていました。国立は翌日の東アジア選手権の準備で使えないみたいです。備品も借りて10万円以内で収まるということで良いのであれば青学会館で良いかと思えます。もし意見がありましたら教えていただければと思います。

中塚：2月6日はやるよと言っているのだから、とにかくこの日はやります。そして、可能性として青学会館アイビーホールが出てきましたという部分ですね。はじめに、私からテーマの案について話をし、その後、日程や内容について意見交換できればと思います。

I. 提案（中塚より）

II. ディスカッション

1. テーマ案3（中村覚之助）をめぐって
2. テーマ案1（メガイベント）をめぐって

◆結論－2月6日は中村覚之助、3月6日はラグビーワールドカップ、FIFAワールドカップは1月の月例会

3. 公開シンポジウム（3月6日）－ラグビーワールドカップについて
4. 中村覚之助シンポジウム（2月6日）のイメージづくり
5. 会場確保・準備の進め方など

I. 提案（中塚より）

（四角の枠内は、当日の配布資料）

■テーマ案1－日本で開催される「メガイベント」にどう向き合うか（仮題）

1. 「メガイベント」の定義と対象

- 1) 定義は …
- 2) 対象は …
 - ①オリンピック（2016東京招致および2020東京？広島？）
 - ②FIFAワールドカップ（2018または2022の日本招致）
 - ③ラグビーワールドカップ（2019日本大会）

2. 大まかな内容と議論のテーマ

- 1) 各大会の概要（計画段階のものを含む）
- 2) 各大会の意義・意味（日本で、いま、なぜ開催するのか）
- 3) 我々はどう関わるか、向き合うか
 - ①「我々」と言ってもさまざまな立場がある
 - ②「関わり方・向き合い方」にもいろいろある
 - ・プレーする人たち：競技者・指導者・競技団体関係者（トップレベル～育成段階）
 - ・施設・設備をつくる人たち：自治体・行政関係者
 - ・出資する人たち：自治体・企業・国民
 - ・伝える人たち：テレビ・新聞・雑誌・インターネット
 - ・見に行く・ささえる人たち：一般市民

3. 演者候補

- ①オリンピック（2016東京招致および2020東京？広島？）
 - 清水諭氏（筑波大学）→×
 - 真田久氏（筑波大学）→？
- ②FIFAワールドカップ（2018または2022の日本招致）
 - 五香純典氏（2018/2022年FIFAワールドカップ日本招致委員会）…JFAから出向
- ③ラグビーワールドカップ（2019日本大会）
 - 山本巧氏（防衛大学）→？

総会から続いているのが、このテーマです。対象としてはオリンピック、FIFA ワールドカップ、ラグビーワールドカップの3つに絞っているのですがそのまま良いと思いますが、牛木さんのコメント(事前にいただいていたもの)にもあるように、定義をどうするのかということがあります。

大まかな内容としては、各大会の概要(計画段階も含む)について各演者に話してもらい、各大会の意義・意味(日本で、いま、なぜ開催するのか)について、フロアーを交えてしゃべりたいなと思っています。他人ごとで終わってしまうのはつまらないので、我々はどう向き合うかという部分を議論できればと思っています。

演者については、筑波大学スポーツ社会学研究室の清水諭さんが、『オリンピックスタディーズ』という本も出しており、理論的に、しっかりしたお話をしていただけるのではと思ったので仲澤さん経由で打診してもらったのですが、日程的な理由などで難しいとのことでした。その次に当たったのが真田久さん。会員ではありませんが、筑波大学のスポーツ史の先生で、いまJ O Aで嘉納治五郎の研究などいろいろやっておられる方なのですが、打診したところ好感触が得られたところです。真田先生は今回の演者の軸になり得るのではないかとこのところではあります。

ワールドカップについては、情報をもらおうと思い五香さんに連絡を取ってみました。彼はJ F AのCHQ、今ではPHQになっていますが、そこから11月1日付で招致委員会に出向になったとのこと。実は彼は、筑波大附属高校で教育実習を経験した元実習生でもあります。日程的にも2月6日はOKで、日が変わっても調整してくれると言ってくれています。12月4日に南アフリカ大会の抽選があり、そこで海外向けのリリースはするそうなのですが、国内向けにはあまりお金をかけられず、PRが不足しているという状況でもあるので、公開シンポジウムで取り上げてもらえるのは願ってもないことだという回答でした。

ラグビーについては、嶋崎さんからも意見をいただきたいのですが、この前、月例会に来てくれた山本さんがいいかなと思っています。演者も含め、これから話しを深めていければと思うのですが、実はこの件で仲澤さんなどと話している中でテーマ案2が浮上してきました。

■テーマ案2ー日本スポーツの100年を振り返ってー日本体育協会100周年を前に(仮題)

1911(明治44)年7月10日創立の日本体育協会が2011年に100周年を迎え、記念事業が計画されている(サロン会員も関わる)。サロン2002として、この100年を検証しておきたい(来年度でもよい)。

これは、今年でなくてもいいんですが、2011年が日本体育協会の100周年で、それに向けていろいろな企画が準備されています。サロンとしても、この100年を検証する必要はあるので、仮に「日本体育協会100周年を前に」というタイトルで、100周年の年に、つまり日体協がお祝いする前に、サロンとしてできたらということです。日体協のホームページには、企画の日程も載っていました。日体協としても2011年のメインイベントの前にプレイベントとして各地で地域シンポジウムをやるようなので、その前にサロンとして何かできないかというのがテーマ案2です。

そんなことを考えていたら、本日の16時くらいに和歌山県新宮市の山本殖生さん(熊野で3月に行ったシンポジウムの演者)から電話がかかってきました。

■テーマ案3ー中村覚之助と日本サッカーの夜明け(第2報)■

本日(11/24)16:00過ぎ、新宮市の山本殖生氏(熊野三山協議会幹事)からTELあり。

2/6~3/6の1ヶ月間、「紀州館」(有楽町・交通会館地下)にて、熊野三山・ヤタガラス・中村覚之助を前面に出しながら、ワールドカップ南アフリカ大会へ向けてのイベントを開くことになった。

「この期間中に、3月に勝浦で行ったようなシンポジウムを東京でできないだろうか」(山本氏)。

・中村覚之助のことを引き続き検証する場は必要。ぜひ行いたい!

- ・3月のシンポジウムと合わせて、内容をまとめて冊子にすることも必要。そのきっかけともなる。
 - ・3月以降の動向を含め、発展的な内容が期待できる
- 2月7日（日）に、第106回筑波大学vsYC&AC対抗戦がある。
- 2月6日（土）は中村覚之助のシンポジウムにしてはどうか…

山本さんは、熊野で3月にシンポジウムを行った際に、ヤタガラスについて発表して下さった方です。南アフリカ大会への盛り上げの意味も込めて、2月6日から1ヶ月間有楽町にある和歌山県のアンテナショップ（注：「紀州館」ではなく「喜集館」）で、熊野三山・ヤタガラス・中村覚之助を前面に出したイベントをやることになったそうです。いろいろな方に記帳していただいたものを持って、最後はサッカー関係者に熊野詣でしていただくというイベントのようです。

山本さんからの電話は、この期間中に、熊野でやったようなシンポジウムができないかという相談でした。企画としてはまだ全然練られていない状況のようです。サロンとしても中村覚之助については引き続き検証していきたいし、前回の内容を冊子にまとめそこなっているので、今回のシンポジウムもあわせて冊子にまとめて勢いづかせたいと思っています。

これはこれでやりたいと思っているのですが、問題はこれを、サロンのシンポジウムとどう絡めるか、あるいは、絡めないかなんです。

実は2月7日（日）に、筑波大学とYC&ACとの対抗戦（第106回）を行うことが決まっているので、その前日の2月6日（土）は、テーマ案3でシンポジウムを行うには絶好のタイミングです。

そこで提案ですが、2月6日は中村覚之助についてのシンポジウムにして、テーマ案1のシンポジウムは時期を1ヵ月くらいずらしてできないでしょうか。

今日は、これから時間もあるので、今の提案も含めてご意見いただけないかと思います。

これと合わせて、現在動いているのが、3月21日に大分で、サロン主催のシンポジウムを行うということです。これは、昨年度のシンポジウムで取り上げた地域スポーツとのつながりでもあります。その後の大分の状況について検証できないかと、宮明さんと、福岡に転勤になった室田君が中心になって進めています。

Ⅱ. ディスカッション

1. テーマ案3（中村覚之助）をめぐって

中塚：高田さん、まず運営面ではいかがでしょうか。

高田：運営面では、日にちが決まれば会場を確保するだけなので、まだ11月ですから大丈夫です。ただ、準備の部分で、私は3月の勝浦で行ったシンポジウムに参加していないので、今回どのように進めたらいいかがよく分かっていません。ただ、案1が明確になっていない状況では、案3が1番進めやすいと思います。案2は、これはこれでやるとは思いますが、今回のシンポジウムでなくてもいいかなど。そして、案1と案3は毛色が違う話なので、これを混ぜるのは難しいのではないかと個人的には思います。

中塚：山本さんが電話でおっしゃっていたのは、勝浦で行ったようなシンポジウムを東京で行いたいということで、演者や内容については、勝浦のものをベースに考えておられると思います。ただ、案1の真田先生が好感触ということで、案1のその部分と案3を結び付けられる可能性は

あります。つまり、嘉納治五郎と中村覚之助という持っていき方をすることで、案3も膨らむと思いますし、オリンピックとも結びつくかと思います。

高田：ここ数年、事務局をやらせてもらって、アンケート結果を見ると、内容が分散するとモヤモヤしたまま終わってしまうことがあるように感じています。去年は、地域というテーマでまとまっていたと思うんですが、おとしのドイツの時は、内容が分散してしまったかと思います。これは仕方がないことで、むしろいろいろな観点で話せる方がいることはサロンの良さではあるんですが、シンポジウムとしては、話が分散してしまうことを避けるようにした方がいいのではないかと思います。

牛木：私も高田さんに賛成で、1つのテーマを決めてその周辺について話をするならばいいんだけど、3つのテーマでそれぞれに演者を選ぶと、それぞれ勝手なことを話してしまうんですよ。テーマ案1でも、メガイベントそのものを取り上げるのか、個別のイベントを取り上げるのかという2つの分け方があって、もし個別のイベントを取り上げるのであればオリンピック、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップのうちから1つを中心に据えた方がいい。そして、ラグビーワールドカップであれば1人は専門家を中心に据えて、あとはジャーナリストでラグビーとオリンピック、ラグビーとFIFAワールドカップを関連付けて話せるような人が演者になると良いと思う。

案3については、喜集館だと、物産展をやるような場所だと思うんだけど、関連付けてシンポジウムを行うのであれば、近くで人を引っ張れるような場所でやった方がいいと思う。そして、これについても、テーマをヤタガラス、中村覚之助、嘉納治五郎から1つに絞って、それに関連させて他のものが出てくるというようにした方がいいと思う。

中塚：絞るとしたら、今回は中村覚之助ですね。

牛木：そうしたら、真田さんに中村覚之助と嘉納治五郎を関連付けて話していただいて、シンポジウムを2つやるというよりも、これは講演会にした方がいいと思う。嘉納治五郎はすでに超有名人で、中村覚之助はこれから有名人にしていこうという人だから、嘉納治五郎の専門家から話をしてもらえるのはおもしろいと思う。それから、サッカー史研究会で福島さんが言っていたヤタガラスの図案を書いた人について研究している人の講演というののもどうかなと思った。でも、南アフリカ大会に向けてということでもう1つの要素が出てきてしまった。

中塚：これは電話で山本さんから言われたことですが、南アフリカ大会に向けて日本のサッカーも盛り上がり、ヤタガラスも4年に1度クローズアップされるので、この機会に喜集館というアンテナショップでイベントをやろうという話しになったそうです。それに合わせてシンポジウムができないかということで、場所もこれから探すらしいです。そういう意味では、既にこちらで場所は押さえているのでそこを活用してもらってもいいのかなと。

嶋崎：でも喜集館という本拠地があるわけだから、やるとしたら有楽町界限とか近いところが良いわけですね。向こう側としては人寄せもしやすい訳だから、そういうところも考えてあげた方がいいと思うし、サロンのメンバーでも熊野にいった人は少ない訳だから、勝浦でやったシンポジウムにちょっと色をつけてもう1度東京でやるくらいの軽い気持ちでいった方が、パワーを使わずにできると思います。

中塚：会場については、山本さんも全く分からないようで、インターネットで検索して文京シビックホールが埋まっていたというレベルの話でした。

高田：会場については、何人くらいでどのようなところと言っただけであれば僕の方としてもサポートします。

牛木：こういうものは基礎的な観客を持っていないと非常にパラパラになってしまう。例えば、喜集館ということで和歌山県人会のようなところから基礎的な観衆を集められるのであれば、それに合わせてできればと思う。

中塚：もしこれを実際にやるとなったら、翌日の定期戦との絡みもあるので、茗友サッカークラブも力を入れますし、学生にも聞きに来るように言えると思います。

高田：案1と無理に絡めてやるよりもやっぱりシンポジウムと分けてやった方がいいんじゃないですか。定期戦の前夜祭として行いながら、盛り上がるだけでなく有益な情報も提供できれば、和歌山県の人、茗友サッカークラブ、学生とある程度集客もできると思います。

2. テーマ案1（メガイベント）をめぐって

高田：ちょっと話が戻って申し訳ないんですが、総会の時に、僕がメガイベントについて話した時には、オリンピック、FIFA ワールドカップ、ラグビーワールドカップの招致活動が行われていて、そこにサロンの関係者も関わっているので、メガイベントの招致がありますよねということで「メガイベントの招致」を題材にしたらおもしろいのではないかというのがあったんです。招致できなくなったオリンピックと、招致できたラグビーワールドカップと、1度招致していてもう1度招致しようというFIFA ワールドカップがあるので、「招致」ということで比較できるかと思います。もし1つのイベントを取り上げて、オリンピックとなったら僕は東京オリンピックには大反対です。たぶん東京で行われることになっても会場に行かないと思います。しかし、招致ということについて興味を持つ人は多いと思うんですよね。例えば、なぜラグビーが招致に成功したのか、2002年の経験を踏まえて2018年または2022年のFIFA ワールドカップをどのように招致しようとしているのかが聞けたら面白いと思います。

牛木：テーマ案1としては、ラグビーワールドカップを中心に据えるのが僕としては興味がある。オリンピックについては、招致に失敗して、次招致するかについては、石原さんが在任中に手を挙げるだけということでまだ分からないところがある。それよりもラグビーであれば、もう招致が決まっていて、どのように開催するのか、それが日本のスポーツにとって、また日本国民にとってどのような意味があるか具体的に聞くことができる。オリンピックやFIFA ワールドカップの経験に照らしてどうかという具体的な話をすることもできる。メガイベントそのものを取り上げるという案もあるけれども、それでは話が固くなりすぎるかもしれない。

高田：個別のイベントだと、コンフェデレーションズカップを振り返ったように、終わった後であれば取り上げやすいけれども、開催前だと難しいところがあるのではないかと。

嶋崎：ラグビーで言えば、今ギリ貧な状況なので、ここで1回盛り上げないと競技人口も増えないだろうということで勝負に出たところもあったんですよね。それと、IRBの、ラグビーをもっと世界に普及させたいという思惑の中でまとまった話だと思うんですよね。ラグビー界としては、ワールドカップまでの10年をどのように過ごしていくかは真剣に考えていかなければいけないことで、ワールドカップが決まった今、話すことはあるかと思います。最も大事なことは、日本で開催する意義・意味だと思うので、その部分であれば山本巧氏ならバッチリだと思いますが、招致のことであれば、協会に招致のチームがあったので、そこの方に来ていただけたらと思うんですよね。それから、ラグビー界の外からラグビー界をどう見るか、ラグビーの世界にどう取り込んでいくかということがラグビー界としては最も興味があることなので、招致について、ラグビー界としてどう盛り上げていくか、それを外からどう見ているかという3本立てでいけるといいと思うんです。招致チームの方、山本さん、それから直接ラグビー界に関わっていない人を演者として呼べれば話はできるかなと思うんですが。

牛木：東京オリンピック招致がなぜ失敗したかは専門家の間で話せばいいことであって、一般の人たちはこれからどうするかということの方が興味を持てると思うんですよね。

阿部：月例会での山本さんの話も、7人制の問題などおもしろかったですよね。

牛木：ラグビーはいろいろな問題を抱えているから。例えば、オリンピックを契機にラグビーを普及させようと思っても、それは7人制であって、ワールドカップは15人制だという問題がある。高体連のチームはみんな7人制をやるようになってしまわないかとも思う。素人はいろいろなことを考えますよね。招致の時の130億円についても、僕はデポジットで「これだけ用意しないさい」ということで開催費用をそこから使えるのかと思っていたら、IRBに取られっ放しらしいんだよね。そうすると、その130億円をどうやって作るのという問題になってくる訳です。テレビの放映権についてもIRBが全部取っちゃっているらしい。だから、テレビの放映権を日本組織委員会が売るということもできないらしい。テレビに映る看板の権利もあるんだけど、ラグビーでは分からないけれども、サッカーだとFIFA、実際にはエージェントが全部付けている。そうすると地元にはお金が落ちてこない。地元は入場料収入だけだと聞きました。サッカーの2002年ワールドカップのときは、ドルの変動で日本協会が大儲けしたけど、いつでも為替が開催国に有利に動くというわけではない。その辺をどのように考えているかっていうのは知りたいところですよ。どのような意義があって、どのような困難があるのか。それをどのように克服するのか。それを克服する価値があるという人もいて良いと思うし、そんなことしなくてももっと地道に努力してラグビーを普及させた方がいいという人もいるかもしれない。シンポジウムをやるのであれば、2つの違った意見プラス1つというくらいじゃないと思います。オリンピックはいいものだという前提に進められる議論が多いけど、それではシンポジウムとしておもしろくない。

中塚：そうすると何となく演者も含めて見えてきたんですが。2月6日は、テーマ3ですね。それで、真田さんに演者に入っていて、嘉納治五郎と中村覚之助について語っていただく。その前後で、ぜひ五香さんの話もサロンで取り上げたいんですよ。しかし、今の話を踏まえると、シンポジウムはラグビーを柱にした方が良いという気がするので、五香さんには別立てで月例会に来ていただくというのはどうでしょうか。

牛木：それはすごく良いと思うね。1度少人数で話聞いてみたいよね。

中塚：彼（五香氏）も1度話したいと言っていたので、そういうふうにしましょう。シンポジウムは、メガイベントと言っているけれども、2019年のラグビーワールドカップに特化して企画します。

◆結論—2月6日は中村覚之助、3月6日はラグビーワールドカップ、
FIFA ワールドカップは1月の月例会

3. 公開シンポジウム（3月6日）—ラグビーワールドカップについて

嶋崎：ラグビーワールドカップの招致活動についてだと、お手柄話になってしまうと思うんですね。

牛木：お手柄話もあって良いけど、ただ、聴衆にとっては、これからどうなるかという部分で、自分たちは知らないけれども専門家は知っているだろうということを知りたいわけだから、ラグビーで特化するのであれば、1人はこれからの動きに関わっている人がいいよね。おそらく、その人は、過去の招致についても関わっているだろうから。もう1人は、ジャーナリストで、ラグビーは好きだけど内部では批判的な人とかね。僕らもそうだけど、外に対してはサッカーをよしよししていたけれども、内側に対してはサッカー協会の批判ばかりやっていた訳ですよ。昔は、ラグビーでも、ラグビー出身の記者は多かったから、そういう人も多かったんですよ。

嶋崎：ラグビーだと、藤島さんが有名ですよ。

高田：この10年について、招致したけれども実はこうなんですよという話にはとても興味がありますね。それは、サッカーのワールドカップ招致とも全く違う話があるんじゃないですか。サッカーだとある程度基盤が出来ていたけれども、ラグビーだと人数でもどちらが正式になるかという問題もある。

嶋崎：組織も、サッカーの場合は運営のプロがいたと思うんですけど。ラグビーはアマチュアがみんな手弁当でやっている世界なんですよ。私としては、そんな組織がワールドカップなんて招致しちゃって本当に運営できるのという思いがあります。

牛木：サッカーも実際はそうだったんですよ。当時は10数人しか協会にプロフェッショナルはいませんでしたから。今は脹れ上がっている状況なんだけれども。ワールドカップ開催が決まってから、昔はサッカーやっていたけれども今は関係ないと言っていた人たちが、お役所からでも出向してきたんですよ。東大だと役所に入っている人が多いんだけど、そこから組織委員会に入っている人もいた訳だから、ラグビーでもそこはこれからやればいいことだと思う。ラグビーで最も心配しているのは、130億円というお金の話で、入場料収入は地元の組織委員会に入るらしいんだけど、チケット収入だけで130億円純利益上げるというのは大変な話ですよ。

金子：そうすると、博報堂とかが実質的には動くわけですか。

牛木：それを僕としてもどうするのか知りたい。

高田：組織のことも、選手の育成についても、運営面も、この先の10年というテーマだと入るじゃないですか。例えば、ここで130億円という話が出たので、あらかじめ演者に話しておいて、内容に入れておいてもらうなど、この10年というテーマでやったら広がりがあるとおもしろいんじゃないですか。

牛木：おそらくやろうとしている人は成算があってやろうとしていると思うんですよね。それが一般の人には見えてないから見せなくちゃいけないよね。この前のU-20の試合でもほとんどが無料動員なんだよね。

嶋崎：あれは1試合4,000人だかのノルマがあったんですよ。だから配りまくったんです。結果的には平均6,000人以上いったんですけど、収益は上がってないはずだし。

牛木：僕もはじめはお金を払ってチケットを買おうと思って出かけようとしたら、事務の人が、切符あるからあげるって言われて、ただでもらったんだよ。それから、ただのチケットが溢れかえっているということが分かったんだ。でも、それは目的があるから良いと思うんだけど、本番では有料だからそれだけお客さんを集めなければいけない。だから、ラグビーの関係者で開催の意義と意味と問題を具体的に話せる人がいるといいなと。それと、ラグビーが好きで詳しくいけれども批判的なことも言えるようなジャーナリスト。あともう1人だけか。

中塚：気になっているのは日程です。3月13～14日はフットボール学会なんです。その前の週末の6～7日あたりのラグビー界のスケジュールはどうなっているのかな。

嶋崎：日本選手権が2月で終わるので、3月に入ると基本的にはビッグゲームはないと思います。

中塚：3月6日もしくは7日を第一候補にしましょうか。そこで、山本さんが空いているかどうか。

嶋崎：それよりも、もっと適当な人がいるかどうか。山本さんは、直接ワールドカップには関わっていないので。

中塚：だから、彼はむしろラグビー界のこれからの10年間について熱く語ってくれるのに最も適しているでしょう。嶋崎さんにも入ってもらえたらおもしろいよね。

嶋崎：ちなみに僕は7日は卒業式ですね。

中塚：第1候補3月6日（土）。第2候補3月7日（日）。

阿部：もしここでラグビー界の人にたくさん来ていただければ、サロンの会員の拡張にもなりますね。

中塚：そうすると、ますますフットボール学会とバッティングするなと思って。フットボール学会でもラグビー関係者をいかに巻き込むか、なんてことを言ってるんです。

4. 中村覚之助シンポジウム（2月6日）のイメージづくり

高田：2月6日は、講演会というか月例会の大型版みたいな感じになりますか。

中塚：考え方として3月のものの続きにするならば、その時と同じように、主催がサッカー史研究会と茗友会サッカークラブで、協力にサロンが入るような形でもいいのかなと思っています。ちなみに茗友サッカークラブ会長の了解は既に取り付けています。

牛木：これは、茗友と新宮にがんばってもらわないとね。

嶋崎：アンテナショップとの絡みがあるのであれば、和歌山県ということがクローズアップされて、地元の方が中心になってその辺の看板を取りつけてもらえた方がいいんじゃないですかね。

牛木：ヤタガラスについて去年話して意味があったのは、日本代表の新しいユニフォーム発表の時に、今までサッカー協会は3本足のガラスを協会のマークと発表していたのが、ヤタガラスと発表したんですよ。ついに、ヤタガラスが認知されたみたいなんだよ。

阿部：今回急にヤタガラスと言われるようになりましたね。

高田：もし今回、和歌山県人会や和歌山県、茗友 SC と絡んできたら、今の会場はこれまでのシンポジウムの記録から人数を考えて取っているけれども、もう1度考えないとですよ。それから、有楽町近辺の方がいいかということもあるので。でも、シビックホールを取ろうとしていたんですよ。

中塚：はじめシビックホールの400人の会場を取ろうとしたけど、そこは埋まっているから、シビックホールの小さい部屋はどうかという話をしていたようです。

牛木：大きい部屋は取らない方がいいですよ。200人集めるのも大変ですから。

阿部：ラグビーの映画の試写会をシビックホールでやったんですよ。

高田：あんまりすかすかだとしらげちゃうから。

嶋崎：有楽町界限で何かないんですか。

高田：会議室のような形だと有楽町・大手町に結構ありますよね。

岸：交通会館の上も会議室になっているんじゃないですか。

高田：パスポートセンターがあるところだよ。

阿部：東京国際フォーラムは小さい部屋ないんですかね。

高田：値段がいくらするか分からないですけど、国際フォーラムいいかもしれませんね。

牛木：僕がよく使っている専門学校地下にもわりと大きい講堂があるんですよ。ただ、2月、3月は受験の時期だから使えない可能性も高いよね。

阿部：今日高校サッカーの抽選会やっていた日テレの会場はどこにあるんですかね。

金子：あれは汐留か。

阿部：汐留だったらそんなに遠くないですよ。

高田：JFAハウスはそんなに広い会場ないんですか。

牛木：いや、あるよ。

高田：これ、JFAハウスだったらいいじゃないですか。

牛木：JFAハウスはミュージアムの奥のわりと広い部屋と4階の会議室は間をぶち抜けば。でも土日はわりとよく埋まっているんですよ。僕らが使っている日本サッカー史研究会は月曜の夜だからわりと空いているんです。でも、試合の日なんか地方から来た人を集めやすいから、そこで会議をやって、夜サッカーを見に行くなんてことをやっている。

中塚：ラグビーの方は、日程のこともあると思うし、演者のこともあると思うので、年内に詰めていきたいと思います。ここでは、残り時間を使って、2月6日の中村覚之助の方を詰めたと思います。先ほど牛木さんからおっしゃっていただいたように、シンポジウムではなくて講演という方法もある。演者については、ぜひ真田さんに嘉納治五郎と中村覚之助について話していただきたいと思うので、真田さんを置いた上で、あとどのように構成していくかアイデアをいただきたいんですが。先ほど、嶋崎さんがおっしゃったように、熊野に行っていない人はその部分の話も聞きたいだろうから、その焼き直しでもいいんですけどね。

岸：シンポジウムとの対比なんですけど、シンポジウムではラグビーワールドカップを切り口に議論するのを聞きたいという気がするんですが、中村覚之助さんについては前提となる知識がないと楽しめないようなものも多いと思うので、講演の形で話を聞きたいという希望があります。

中塚：なるほど。翌日、YC&ACとの対抗戦があるので、YC&ACの人に来てもらうのもおもしろいかもしれませんね。

阿部：岸君が言ったように、我々のように既に中村統太郎さんと仲良くさせていただいているような人と知らない人では温度差があるかもしれないね。

嶋崎：中村覚之助さんをテーマにして、意見を言えと言われても、これには意見を言いようがありませんよね。だから、話を聞いてみないとどうにもならないということですよ。

牛木：嘉納治五郎と中村覚之助という話と、日本のサッカーがどのように発展してきたのかという話が1つおもしろいし、ヤタガラスがどうして日本サッカー協会のマークになったのかという話もお

もしろいと思う。これも、中村覚之助さんと結びつくと思うし、山本さんはヤタガラスについて話したいと思うんだよね。

金子：嘉納治五郎というのはどこから来ているんですか。

牛木：嘉納治五郎がはじめて高師としてサッカーをやる時に、自分の弟子どもにやらせたわけでしょ。中村覚之助は弟子の弟子みたいなものだけれども、弟子の坪井玄道が持ってきた本を訳したのが中村覚之助。それで、日本サッカーのはじまりみたいな人だから、もっと光を当てようという動きに、だんだん入れ込んできたところなんだよね。オリンピックも嘉納治五郎だし、嘉納治五郎はいろいろやってるんだよね。

中塚：弘文学院（1896～1909）という中国の留学生のための学校のようなものを作られて、孫文もその学生だったのかな（注：魯迅の誤り。孫文はハワイ大学と香港医学校で学んだ後、革命運動に身を投じ、日本への亡命を何度か繰り返した。その際、弘文学院の学生で孫文と行動を共にする者や支援する者がいたという話）。中村覚之助が赴任した学校は、遼東半島の先っぽにあるような学校（注：済南師範学校）なんですけど、その学校は、その地域の学生に勉強させて、北京とか東京の学校に行かせるための学校だったらしんですよ。そういう意味では、もしかしたら嘉納治五郎の命を受けて、中村覚之助が中国に行った可能性もあると。

牛木：少なくとも嘉納治五郎がアジア全体を考えたコンセプトの中の1つの駒として動いているわけですよ。学校そのものがそうだからね。

中塚：その辺の話を実田さんにやっていただきたいなと。討論はできませんが。へえ～の話になると思うけど。

嶋崎：これについては、それでいいんじゃないですかね。講演に近い形で聞くとおもしろいと思うんですよ。

牛木：実田さんがどんな話が出る人か分からないけれども、そこに中塚さんが入って、掛け合いができておもしろいんじゃないかと思うね。あとは、和歌山の方で、中村覚之助について話せる人がいるといいね。中村統太郎さんも本当は話すまいんだけど、遠慮深くてあまり出てこれないんだよね。

中塚：でもぜひ統太郎さんには、覚之助さんの博物学のノートでも持ってきていただきたいですね。

牛木：それはいいね。実物見せれば、みんなびっくりするよね。

中塚：学生ども絶対みんなびっくりしますよ。あと、和歌山大学の加藤弘さんがおられます。和歌山大学は、元和歌山師範学校で、その和歌山師範学校の卒業生を何人かクローズアップするプロジェクトをやっているそうです。その中で中村覚之助を取り上げて、いろいろな研究をやっているようです。加藤先生は東京教育大サッカー部の卒業生なので、茗友 SC の会報で中村覚之助を取り上げた時に、それを見て連絡してくださったんです。10月中旬に済南に行かれたはずなので、ぜひ加藤さんにも来ていただき、現地の様子などを話してもらえたらと思います。そうすると、和歌山を立てることもできるし。

阿部：話は変わるんですが、ヤタガラスのマークを考えた日名子実三さんを研究している人が大分大学の教授にいるそうなんです。もし今回、ヤタガラスも結びつけるのであれば。

牛木：その頃、日名子実三さんが彫られたメダルなんかでは、神武天皇も彫られている。これで、日名子実三さんが、中国の伝説をもとに作ったのではなくて、日本書紀をもとに作ったのは明らかかなんだよ。

中塚：そうしたら、今回は、ヤタガラスについては、サブストーリーとして3月の続きのような形で山本さんに紹介していただくような形かな。メインは中村覚之助で。これは、早速明日、山本さん、真田さん、統太郎さん、加藤さんとも連絡を取ってお願いしていきます。

5. 会場確保・準備の進め方など

牛木：会館については、空いているかどうかを確認しないとね。僕がいつも困ったとき使っているのは、勤労福祉会館とか女性センターとか赤坂区民会館とかあるんだけど、区の施設だと区民優先。

高田：区の施設だとその区に活動拠点を持つ団体じゃないと難しいですよ。今回、東京体育館を狙ったのは、東京体育館は東京なんです。サロンは東京都の人が多くこととか、東京都サッカー協会がIDを持っているということから、今回確認してもらったら空いてなかったんです。

中塚：筑波大の施設なんか聞いてないよね。そこの大塚校舎。あそこにも200人くらい入る部屋があるんですけど。

牛木：茗溪会館にはないの。

中塚：茗溪会館もありますけど、あそこは高いんじゃないかな。

高田：大学の施設は高いんですよ。その中で、青学会館のアイビーホールは綺麗で安いんですよ。

中塚：だけど茗溪の話は青学でやるのはおかしいよね（笑）。

高田：だから2月6日に借りていた分を3月6日に移そうと思うんですが。

嶋崎：ラグビーの方は、秩父宮ラグビー場が改装されて、大きい部屋が出来たので、ラグビー協会の人に来ることになれば借りられるかもしれませんが。ラグビー協会の持ち物ではなくて、国立競技場の持ち物なのでお金は払わなくちゃいけないんですけど。僕らのレフリーの研修会なんかはよくそこでやっているの。

高田：秩父宮も国立もそこで何かをやる人用の会議室になっているんです。だから今回も東京都サッカー協会を通じて国立競技場を確認したら、はじめOKだったんだけど、東アジア選手権

で使うからだめだってことを言われたんです。秩父宮もラグビー協会を通じて申し込めば大丈夫そうですね。

嶋崎：大丈夫だと思います。ラグビー協会で使っているのは、秩父宮と東京体育館と日本青年館。

高田：秩父宮でやるというのは良いですね。

中塚：そのところを嶋崎さんと高田さんとで連絡取り合って話していただけますか。

高田：日本青年館は機器を使っても安いので空き状況だけまず確認してみます。秩父宮は聞いていただいてよろしいですか。

嶋崎：まずはこういうイベントをやりたいんだけどという話を協会の人にしてからですね。その辺のあたりをつけて、やるということになれば場所も、ということで話してみます。誰に交渉するかというところでもう1度聞きたいんですけど、これから招致委員会が解体されて実行部隊が出来てくると思うんですが、1人はそういう本体の人がいいですね。

牛木：内情に詳しい人で、ワールドカップをラグビーのためにやろうという前向きな人が1人いないとだよ。協会の肩書では、出られないということもよくあるんだけど。

嶋崎：協会の人と誰がいいかを確認して、その人によってあたり方を考えてみます。ジャーナリストの人とやるとなると言質を取られるんじゃないかと尻込みして出てこない人もいます。前に話した時には、好きな人が集まってやっている研究会の場なんで、そういう場ではないよということは話したんですけど、それなら誰か出られるんじゃないかという話だったんです。それから、1人はできればジャーナリスト的な人がいいですね。

牛木：藤島なんかが協会との関係が悪くないのであれば出てくれればいいんだけど。

嶋崎：早急に当たってみます。

高田：日本青年館がある青山周辺だと、子どもの城にも160~180名入れるきれいな会議室があって、わりと安いんですよ。

阿部：学士会館というのはどのくらい入るんですか。

牛木：この前はパーティーも一緒にやって120~130名入ったね。でも、茗溪会館と一緒にあまり安くないんだよ。

高田：2月6日、JFAハウスは一般で申し込めるんですか。

牛木：一般には貸していないみたいだね。今度、協会のイベントとして、実質的には大住がやっているみたいだけど、12月14日19時から、南アフリカに旅行するにはどうしたらいいかというトークショーをやるみたい。

阿部：一応限定 200 名とかいって、私は 60 番くらいでした。

牛木：200 名は越えないからご心配なく。

高田：J F Aハウスを申し込める方ってどなたかいらっしゃいますか。

中塚：まずはサッカー史研究会の津内さんに聞いてみます。J F Aハウスを聞いてみて、ダメだったら筑波大の大塚校舎。これは高橋さんに聞けば分かると思う。

最後に確認します。12 月月例会は 12 月 19 日（土）サッカー居酒屋「いなば」19：00～ お宝映像上映会兼忘年会。お宝映像候補は、阿部さんがお持ちのベッケンバウワーとクライフがクラブシーンで対決したアヤックス対バイエルンミュンヘン。

1 月例会は、期日は定かではないですが、五香さんをお願いして F I F Aワールドカップ招致のコンセプトなどをたっぷり話してもらいたいなと思っています。

2 月 6 日に中村覚之助のシンポジウム。演者候補として、真田さん（筑波大学）、加藤さん（和歌山大学）、中村統太郎さん。統太郎さんには、覚之助さんのノート持参でぜひ来ていただきたい。サブとして、山本さんから、ヤタガラスの話をしていただくのいいかなど。会場は、第一候補 J F Aハウス、第二候補筑波大学大塚校舎。

そして 3 月 6 日を第一候補として、今年度の公開シンポジウム。2019 年ラグビーワールドカップへ向けて。演者は、招致に関する話を話していただける方（たぶんラグビー協会の方）、ラグビーの今後 10 年間について、特に育成面で話してくれる方（第一候補は山本巧さん）、周囲からということでジャーナリストの藤島大さん。嶋崎さんからあたってみていただけますか。

嶋崎：協会の中のことは、私よりも山本さんの方が詳しいと思うので、まず山本さんにあたってみます。あとは、協会の知っている人からあたってみるのと、両面からやっていきたいと思います。

高田：一応押さえとして、青学会館を 3 月にスライドさせた上で、日本青年館を確認してみます。

阿部：1 月の月例会と関連して、ビバサッカー研究会は第 3 金曜日に開催することになりました。1 月は 15 日です。

牛木：テーマは、今月から、ワールドカップに出場する国を 1 ヶ国ずつ取り上げています。この前はアルゼンチンをやって、次はブラジルで、2 月はドイツ。1 月はまだ決まっていなかったけども、イタリアかスペインかイングランド。

中塚：サッカー史研究会は第 3 月曜日ですか。

牛木：そうです。これも連休と絡んだりすると変えているけどね。

中塚：中村覚之助については、3 月にやったものも合わせて年度中に報告書にしましょう。ラグビーを取り上げる公開シンポジウムの報告書は、3 月開催ということで年度中に作成することは難しいだろうけど、名簿と同じタイミングで会員に送れるようにしましょう。

（その後、五香さんから電話が来て、1 月の月例会は 1 月 20 日に決定。）

以上